

茨城県古河市立八俣小学校 (学校長 大久保 修)

実施日	平成20年1月16日(水)	時間	午前9時30分～午後1時30分
実施場所	多目的室、6年教室、更衣室	対象/人数	4年生80名、6年生73名
担当教諭	飯泉 千恵子	ファシリテーター	原 富美枝
講師	リム・フェキ(チュニジア・留学生) 王 清(中国) イ・ミラン(韓国) ジェームズ・モリアン(イギリス)		

活動内容

6年「地球発見! 世界の人とふれあおう」グループワーク
 各国の文化・遊び・言葉・食べ物などについて講話。

4年「世界はともだち 世界の食べ物を調べよう。」全体
 学習会

各国の食べ物、食品、農作物などについての講話
 ふれあい給食

児童の感想

・いろいろな文化を学ぶことができました。いろいろな楽器も演奏してくれました。写真を見せ教えてくれたり、踊りを踊ってくれたりしたので楽しく学習することができました。もっといろいろな国の人に会ってみたいです。

・世界の文化を学びました。世界の人々と仲良くなるためには互いに文化を理解すればいいと思います。

・チュニジアの踊りは、最初ははずかしくてできませんでしたが、みんなで一緒にやってみたら何だか楽しくなってきました。

・内モンゴルでは、よく食べるのは羊の肉で牛肉より力がでるそうです。また、踊りには動物の動きが入っているそうです。教えてもらったこと以外にまだまだたくさんの不思議があると思います。だから、これから調べたり、実際にいろいろな国に行ってみたりしたいと強く思いました。

・どの国の先生も、国や家族を大切にしていることが分かりました。目上の人を敬っていることも分かりました。

先生の感想

・異文化に触れる機会の少ない児童にとって、世界4カ国からの講師の先生方のお話を直接聞いたことは、ただそれだけでも貴重な経験になったと思う。

・講師の先生方が民族衣装を身にまとして登場してくれたり、写真・楽器・お札・国旗など実物を持ってきてくださったりして各国の文化を視覚的にもとらえられるように工夫してくださったので、児童も興味・関心を高めることができた。特

に、各国の踊りや楽器演奏は児童もいっしょに体験することができ、よかった。

・6年生と4年生で時間を替えて実施した。6年生と4年生の児童の課題や実態に合わせて、話す内容を変えてくださったり、話し方も変えてくださったので、どちらの学年の児童もよく話を聞くことができた。

成果と課題

・6年生は学年を4グループに分けて、1か国25分のグループ学習を行った。1か国ごとに教室も替えることによって、集中して話を聞くことができたので、さまざまな国の文化の良さを知ることができ、総合的な学習での国際理解教育を深めることができた。

・とにかく、世界にはいろいろな人、いろいろな文化があり、それらはどれも素晴らしい。ということを知ることができたことは、児童にとってプラスになった。

・講師の先生方の自国や家族を愛し、誇りに思う気持ちにふれて、日本人として日本の文化をさらに理解したり、大切にしたりしようとする気持ちがでてきたことは大きな収穫であった。

・ワールドキャラバンにあたって、事前の調べ活動が十分でなかったために、質問が深まらなかった。また、ワールドキャラバンの実施内容についても、児童の自主的な活動になるように実施内容について児童に話し合いの時間を十分に持たせるべきであった。

・国際理解教育が1回だけのイベントに終わらないように、継続して実施していきたい。

